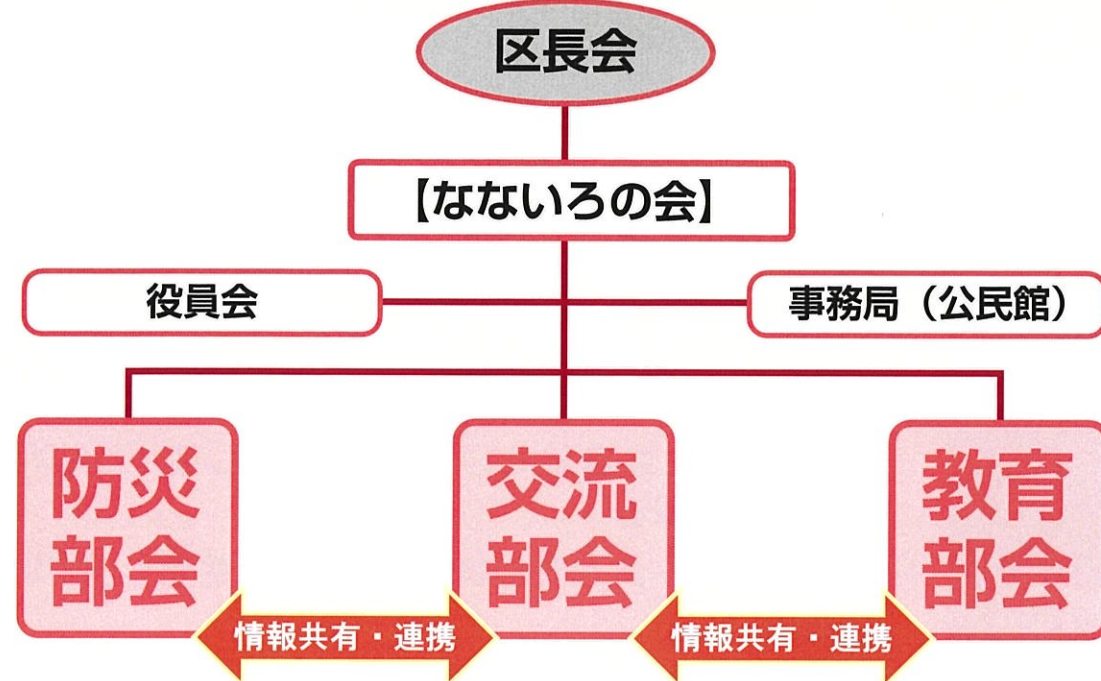


活動推進体制

活動を推進するため、西能生地区活性化協議会（なないろの会）を設置します。なないろの会は、活動を実施する部会を設け、団体間が連携しながら、西能生地区全体の振興に寄与します。



年度別事業予算

プランの対象期間は、平成29年度～33年度

収 入

(千円)

費 目	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	合 計
市補助金	500	500	500	500	500	2,500
自己財源	20	40	60	80	100	300
合 計	520	540	560	580	600	2,800

支 出

(千円)

活動名	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	合計
教育部会	50	50	50	50	50	250
交流部会	100	100	150	150	150	650
防災部会	50	150	200	200	200	800
総務部会	320	240	160	180	200	1,100
合計	520	540	560	580	600	2,800

【地域で「なないろっ子」を育む】【西能生地区は、みんなお友達】【おたがい守り隊】
西能生地区活性化協議会 【なないろの会】

事務局:西能生地区公民館 (〒949-1337 糸魚川市桂490-1)

☎025-566-3114 ✉ nisinouko@bz04.plala.or.jp

URL <http://nanairono-kai.hatenablog.com>

保存版

平成29年7月



【はじめに】～「地域づくりプラン」ができるまで～

西能生地区活性化協議会(愛称「なないろの会」)は、平成27年6月に西能生地区区長連絡協議会のもと、糸魚川市の総合戦略を西能生地区に具体化するため、各地区から検討委員が集まり発足しました。

愛称「なないろの会」には、西能生の七つの地区が一つに繋がって発展していくことへの願いがこめられています。「なないろの会」は、これまでに20回の協議会を開き、「地域の現状と課題」「理想の姿」「活動の骨子」などについてワークショップによる話し合いで検討を重ねてきました。ここに、ようやく「地域づくりプラン」がまとまり、みなさんにお届けできる運びとなりました。これからは地域のみなさんご理解とご協力を得て、具体的な事業を進めていきます。事業の主役は、地域住民のみなさんです。西能生地区発展のため、一緒に力を合わせて進んでいきましょう。

桂橋からの景観

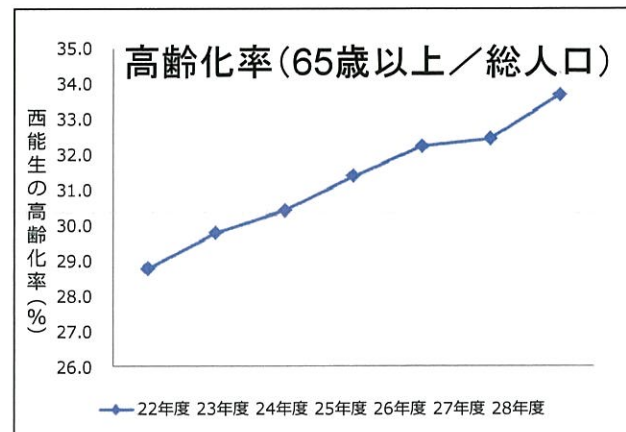
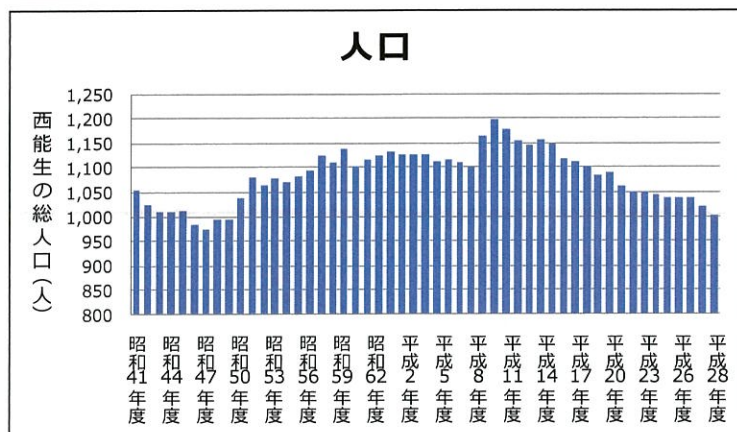
西能生地区の概要

平成29年3月31日現在

◆人口	1,003名	◆集落数	集落
◆世帯数	326世帯	◆集落名	大平寺、寺山、旭新町、桂、鶉石、下小見、大王(サンコーポラスを含む)
◆高齢化率	33.70%(H29.4.1)		

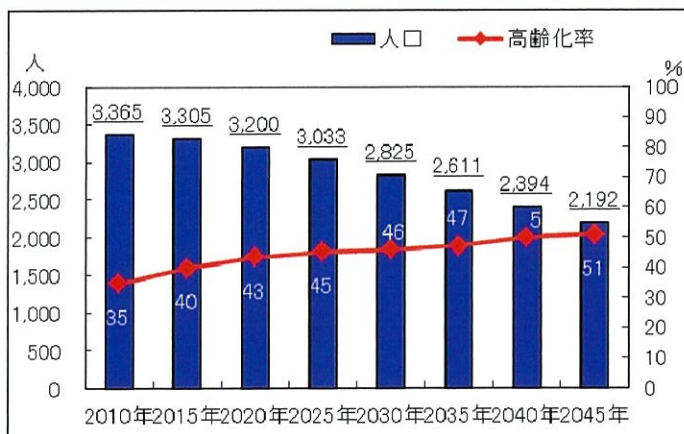
※【参考】ピーク時は、平成9年4月の人口1,198名（H9⇒H29の間に、人口は16%減少）
一方、世帯数は微増ながら増える傾向にあって、S41⇒H28の間は54%の増加

西能生地区の人口等の推移

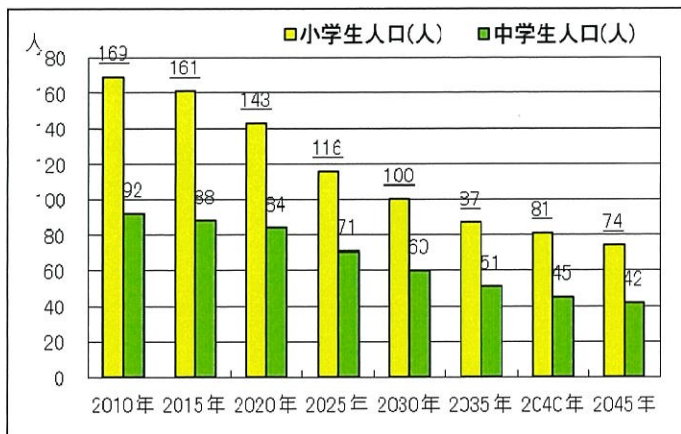


西能生地区の人口は、平成9年度をピーク(1,198人)に以降、年々と減り続け、現在(平成29年3月末)は1,003人となり、昭和43年度の水準まで減っている。
高齢化率は、市全体では低い水準でありながらも、年々増え続け、現在(平成29年3月末)は3人に1人が65歳以上となった。

能生谷の人口推移予測



能生谷全体のデータです。人口は減り続け、30年後には2人に1人は65歳以上になる予想です。
今までの西能生では上南、中能生からの転入がありました。徐々にその転入も減り続け、今後は加速度的な人口減少が懸念されます。



少子高齢化が急激に進み、推計では、今後25年で小学生の人数は、半減、総人口も約3割減ることが予想されます。
特に若者の流出が懸念されます。

活動内容③

【防災部会】

テーマ

もしもの時に備える

プロジェクト名

おたがい守り隊（自分のことも他者のことも）活動

事業の目的

防災活動をベースにした“人と人との繋がり”を大切にする

めざす将来像

- ・「自分のことは自分で守る」を基本としながらも周りの方にも気を配る
- ・住民ひとり一人が正しい情報・知識を共有し、防災意識が高い
- ・自主防災組織が機能し、人材育成も進んでいる

事業の概要

①調査・情報収集

過去の災害調査、水害等のハザードマップ確認、避難場所・経路確認。全集落の状況共有

②報告・広報

避難誘導マップ作成、避難所運営マニュアル作成⇒広報活動（広報誌掲載、誘導看板などで共有を）

③交流／連携

消防団との連携。自治会との連携。自主防災組織へ



調査

自主
防災

報告
広報

交流/
連携

テーマ 新しい出会いや交流を進める

プロジェクト名

西能生地区はみんなお友達

事業の目的

七つの集落が一つの地区としての一体感づくり

めざす将来像

- ・スポーツレクリエーションを通じて、みんなが知り合いになっている
- ・集落の垣根を越えて地区が一体となって交流している

事業の概要

①スポーツレクリエーション

種目選定。集落ごとにお試し⇒西能生地区全体で集落対抗大会を企画

②交流会

お花見会、地区めぐり、映画上映会、マジックショーなど



【スポーツレクリエーション】

みんなが楽しく活発に参加する

交流を
深める

【交流会】

一体となった交流から西能生地区を知る

項目	代表的なもの	地域別
地域内の交流	・祭礼や年中行事への参加者が少ない ・転入者との交流の機会が少ない ・保育園がなくなり、集まる機会が少ない	大平寺／桂／鶉石／大王
地域での活動	・新しいことをしながらない、消極的なところ ・総会などの集まりで気軽に意見が言えない雰囲気 ・災害時の避難場所がはっきりしていない ・地理的に西能生地区に入りにくい	大平寺／桂／旭新町／大王
地域のインフラ	・空き地、空き家が増えている ・道路が狭く、雪捨ての場所が無い ・集落の集会場が古い	大平寺／桂／旭新町／鶉石／下小見／大王
高齢者に関わること	・買い物近くでできない／車が無いと不便 ・交流の機会が少ない ・外に出ず、家にいることが多い	大平寺／桂／鶉石／下小見
子どもに関わること	・子どもが少ない ・子どもに安全な遊び場がない／少ない ・子どもがいるのだが、自然体験が不足している	大平寺／寺山／桂／旭新町／鶉石／下小見／大王
後継者に関わること	・未婚者がたくさんいる／独身者が多い ・高齢化と少子化で地域が成り立つのか不安 ・働く場所がない／少ない／中心となる産業がない	大平寺／寺山／桂／鶉石／下小見／大王
農業に関わること	・農業の後継者がいない ・特産品開発したかったができていない	寺山／桂／鶉石／下小見／大王
山林や自然に関わること	・山林／竹林の管理がされていない ・獣による被害がひどい ・川に関わる災害が心配 ・釣り客のマナーが悪い	大平寺／桂／旭新町／鶉石／下小見／大王

これらの内容から3つのキーワードに絞り込んで検討しました

教育

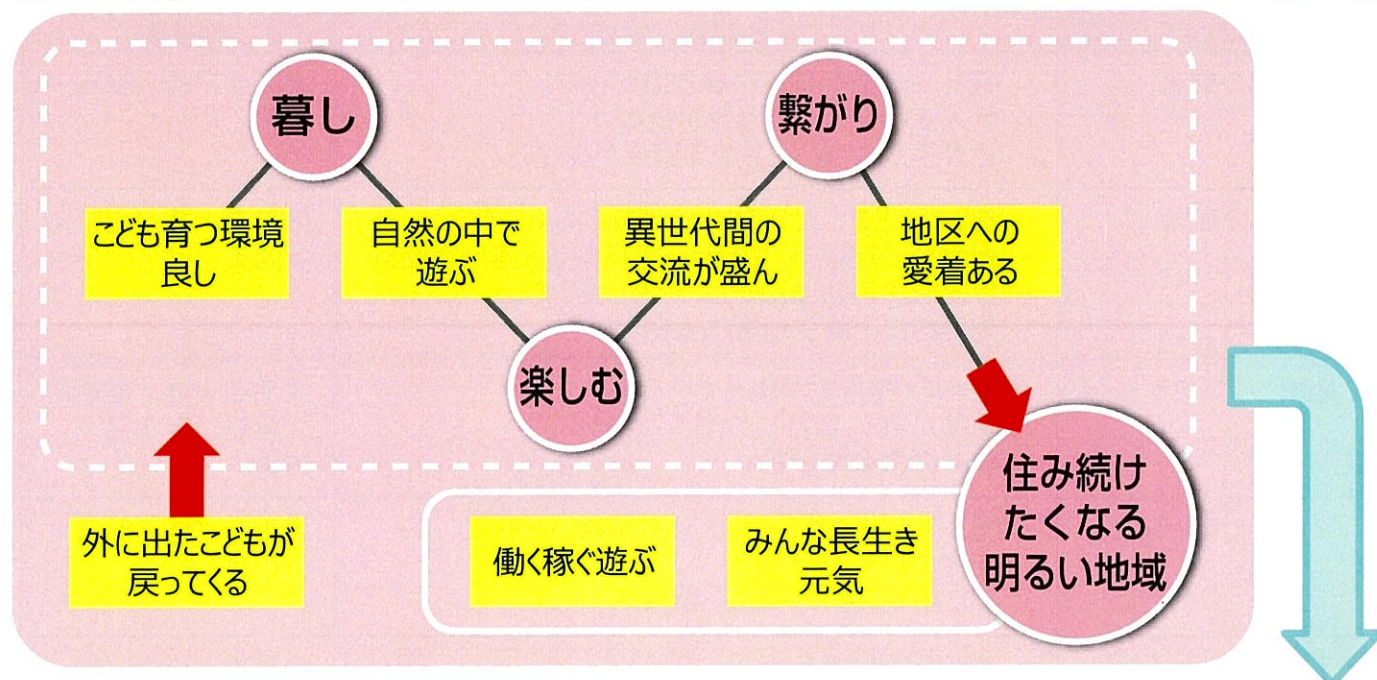
交流

防災

人口予測・現状、課題から視えたこと

西能生地区の高齢化率は市内でもトップクラスの低水準です。比較的に若い世帯が多く、こどもが多いです。そのこども達の教育面での支援を考えます。

一方、7つの集落の集合体である西能生地区は、まだ集落間の交流、人と人との繋がりが少ない状況です。そこで、集落を越えた地区での交流を考えること。そして、地区全体での地域を守る活動（自主防災）を考えます。



全住民が生き活きと暮らす為に、住民みんな
で繋がり合い、住んでいることを楽しめる
地域、子々孫々住み続けたい地域づくり
を目指す！

活動テーマ

3つの活動テーマを設定

西能生地区
活性化協議会

愛称「なないろの会」

西能生の七つの集落
が一つに繋がり発展
していくことの願い
を込めて…

教育部会

こどもの教育を充実させる活動

交流部会

新しい出会いや交流を進める活動

防災部会

もしもの時に備える活動

地域づくりプラン策定の経過

平成27年6月 第1回地域づくりプラン策定委員会
～平成29年6月 第20回地域づくりプラン策定委員会

その他に 地区懇談会2回、映画上映会1回（29年2月）

その間の携わっていただいた委員延べ人数 520名



テーマ こどもの教育を充実させる

プロジェクト名 地域で「なないろっ子」を育む活動

事業の目的

こども達の教育を通じて親や地域が広く関わり、地域全体
でこども達を育む

めざす将来像

- ・こども達同士の教え合いができています
- ・地域の自然や大人たちとの関わりができています
- ・親世代も含めて交流が図られている

事業の概要

①寺子屋の充実

学校の宿題、別途ドリル等教材を用意。こども達同士で教え
合う。ものづくり、あそび体験。

②体験活動

三世代交流（祖父母から孫へ、親から子へ）から自然や大人
の知恵を学ぶ。

③多世代交流

こどもを中心とした親同士の交流や世代間交流



寺子屋

こども
教育

体験

交流